

S&Pによるギリシャおよびポルトガルの格下げについて

現地時間4月27日、米格付け会社のスタンダード&プアーズ(以下、S&P)は、ギリシャの長期ソブリン債格付けを従来の「BBB+」から投機的格付けである「BB+」まで3段階引き下げ、今後の見通しも「弱含み」としました。米格付け会社のムーディーズ・インベスターズ・サービスも、4月22日に「A2」から「A3」へ格下げしていましたが、今回の格下げは3段階と大きかったことに加え、ユーロ参加国の中で初めて投機的格付けへの引き下げだったため、市場に大きな影響を与えました。

また、S&Pはポルトガルの長期ソブリン債格付けについても従来の「A+」から「A-」と2段階引き下げ、こちらの見通しも「弱含み」としました。仮に救済が必要になると、欧州各国に与える影響がギリシャよりも大きいことが懸念されるため、ポルトガルの格下げも市場に大きな影響を与えました。

外国為替市場ではユーロが主要通貨に対して売られ、投資家のリスク許容度の低下から安全通貨とされる円が買われ、円高現地通貨安の傾向となりました。また、好調な企業決算を受けて堅調な値動きを続けていた株式市場も急落し、英国のFT100指数は2.61%、ドイツDAX指数は2.73%、米国のNYダウ工業株30種平均は1.90%の下落となりました。

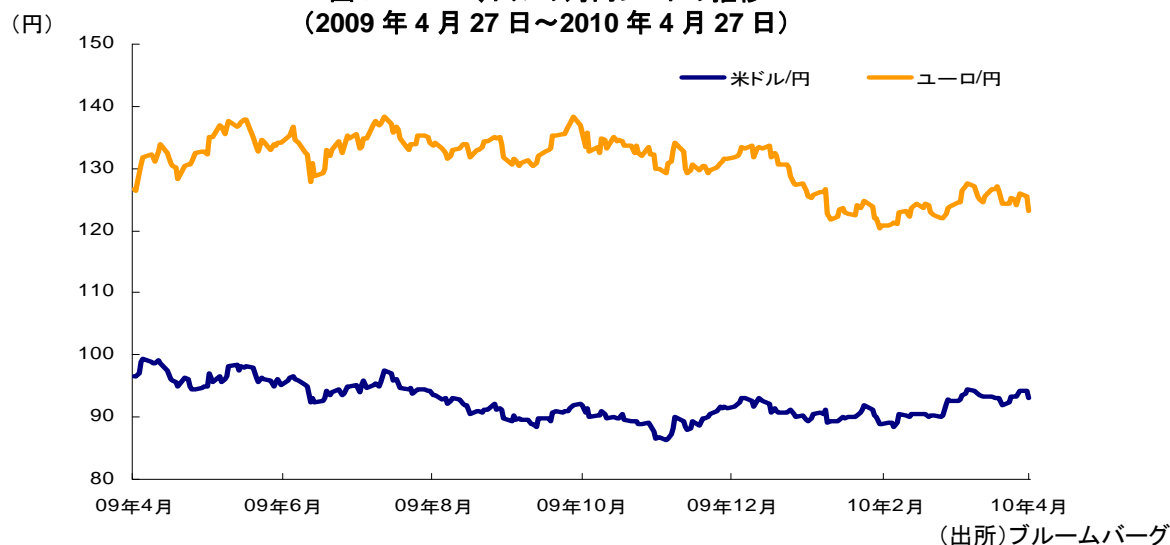
表1. 為替レートと株価指数の前日終値との比較

為替レート (円)	4月26日終値	4月27日終値	変化率
ユーロ	125.56	123.28	-1.82%
米ドル	94.20	93.78	-1.15%

株価指数	4月26日終値	4月27日終値	変化率
NYダウ工業株30種平均	11,205.03	10,991.99	-1.90%
FT100指数	5,753.85	5,603.52	-2.61%
ドイツDAX指数	6,332.10	6,159.51	-2.73%

(出所)ブルームバーグ

図1. ユーロ、ドルの対円レートの推移
(2009年4月27日～2010年4月27日)



一方、昨日の債券市場では、ギリシャとポルトガルの10年国債の利回りは、それぞれ0.13ポイントと0.48ポイントの上昇でしたが、両国の財政状況に対する不安はここ数日で急速に高まっており、国債利回りは急上昇しております。

ギリシャについては、既にEU(欧州連合)とIMF(国際通貨基金)による最大450億ユーロ(約5兆5300億円)の支援の枠組みが出来ており、ギリシャは先週末に正式に支援を要請しました。しかし、実際の資金拠出にはユーロ参加各国の手続きが必要なことが、救済策の不透明感につながっています。中でも最大の支援国になるドイツでは5月9日に地方選挙があるため、連邦議会での早期の承認は難しいとの見方が支配的になっており、市場の懸念材料になっています。

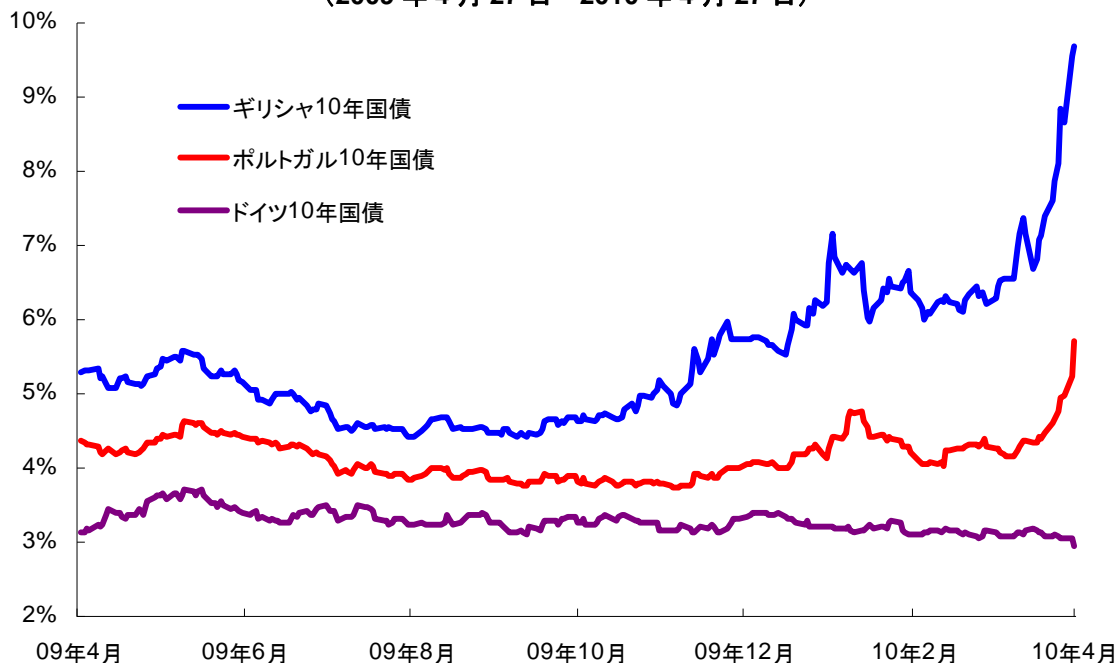
ギリシャは5月19日に約85億ユーロ(約1兆円)の国債償還を控えています。ドイツに見られるように欧州各国のギリシャ救済に関する動きが遅いため、具体策を催促する相場展開になると思われます。実効的な救済策に目処が立てば、市場は徐々に落ち着きを取り戻すと見られるものの、当面は国債償還資金の手当ての期限に向けて値動きの荒い展開になることも予想されます。

表2. ギリシャとポルトガルの国債利回り、及び主要長期金利の前日との比較

長期金利*(%)	4月26日終値	4月27日終値	対比
ギリシャ10年国債利回り	9.56	9.69	0.13
ポルトガル10年国債利回り	5.23	5.71	0.48
ドイツ10年国債利回り	3.05	2.94	-0.11
米国10年国債利回り	3.81	3.69	-0.12

*ジェネリック国債利回り
(出所)ブルームバーグ

図2. ギリシャ、ポルトガル、ドイツ10年国債の利回り推移
(2009年4月27日～2010年4月27日)



(出所)ブルームバーグ